

エチゼンダイモンジソウ

Saxifraga acerifolia Wakabayashi et Satomi

ユキノシタ科

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

産地が極めて限定されており、現存個体数が減少の一途をたどっている。(現況:R-)

形態

葉は根生し、葉柄は10~21cmと長い。葉身は腎円形で、表面にわずかにまばらな毛がある。基部は切形、5~7深裂する。花茎は高さ20~40cm。花弁は白色、上側の3弁は披針形で短く、基部は急に細まり爪状となる。下側の2弁は線状倒披針形で、長さ10~20mm。ダイモンジソウとの相違点は横に這う根茎がある、開花期、葉が深裂するなどである。

国内分布

福井県、石川県。

県内分布

南加賀区。

生態など

多年草。開花期は5~6月。根茎は分枝しながら長く横にはい、ときにはストロンを伸ばした先に芽をつくる。タヌキラン、オオバギボウシ、ウワバミソウ、アカソ等と植物群落を形成している。

生育環境

河川の流水域の岩場や絶えず水が流れる崖斜面に生育する。

危険要因

河川開発、園芸採取、自然遷移、産地局限。

特記事項

生育地は山中・大日山県立自然公園にある。日本固有種。県指定希少野生動植物種。



白井伸和・2008年6月1日・加賀市

分布図はありません。